宇和島港

愛媛県土木部河川港湾局港湾海岸課

〒790－8570　愛媛県松山市一番町4－4－2
☎089－941－2111㈹
URL：http://www.pref.ehime.jp/

1. 概況

宇和島港は四国の西南部、豊予海峡にのぞみ、港口の北には唯波鼻があり、中央には周囲10km余の九島が横たわり、二水道にわかれ、自然の防波堤を形成している。毎年台風時には沿岸諸港よりはもちろん、大型船も避難し、従来より天然の良港と称せられてきた。

元和元年（1615年）初代宇和島藩主、伊達秀宗の時に現在の樺崎に御台場が設けられたのが港湾建設のはじめといわれている。その後、藩政時代には特にとりあげるべきものはないが、安政6年（1859年）には、宇和島藩で西洋型蒸気船を建設し、慶応2年（1866年）には英国軍艦が入港するなど、港湾に対する関心は非常に深かった。明治33年（1900年）には城堀を埋立て、内港築造をはじめ、その後、航路、泊地の浚渫と浅海部の埋立てを行って、市街地、荷役用地、野積場等を造成し接岸施設を整備してきた。

大正12年8月公有水面埋立法施行により指定港湾となり、昭和28年10月愛媛県管理港湾となった。さらに、昭和35年6月重要港湾に指定され、整備が進められている。

本港は四国西南部愛媛県南予地方独特のリアス式海岸湾奥部に位置し自然条件にめぐまれた港である。背後には森林地帯がありまた、海岸線は風光明媚で、特に西海地区の海中は、海中公園に指定されている。

本港の背後圏である、宇和島市を中心とした南予地区は、一次産業が卓越し、人口の減少、産業の停滞など多くの課題をかかえている。こうした中で、南予地方の後進性を打破するため、宇和島圏地方拠点地域として4市町が一体となり、広域的に融合調和した総合生活空間の形成を目指している。本港の位置する宇和島市は、その地域を牽引していく中枢都市として今後の発展が期待されている。

宇和島市は県都松山市から国道で109kmはなれており、西は豊後水道に臨み他の三方は山に囲まれ、特に東及び南は鬼ヶ城連山を背中合わせに高知県に接している。平地は少なく急峻で100m以上の山地である。

本地域一帯の地質はシルト質粘土が主で一軸圧縮試験結果はqu＝6～12t/㎡で測定可能地点でのN値は2～4程度であり、その下層（－19m以深）はN値15～56である。この層は、いわゆる南予層群に属する中生層で、長期間にわたる大規模な連続的沈降運動の結果海底に推積されたものと思われる。風の主風向は風速5m/秒以上の統計資料によると西～西北西～北西方向となっている。これは夏期を除いて卓越風向であるが、特に冬期の季節風によるものが最も多い。最大風速は西方向32.7m/秒が記録されている。また、港内において潮流と称するものはなく、わずかに干満差によって生ずる微弱な潮流を感ずるにすぎない。すなわち満潮時には港口より奥部東に向かい干潮時には奥部東より港口に向かって流出し、その最大速度は港口戒ヶ鼻における満潮時、毎秒21cmであり樺崎付近では毎秒15cm程度である。ただし春秋で大潮時にはこれらより大きい値で平均潮流は毎秒18cm程度と推測される。

このような情勢のもとで、背後圏の経済活動の発展に対応し、四国西南域における流通の中心的機能の一層の充実を図ることはもとより、南予観光開発の拠点として賑わいと潤いのある空間の形成、海洋性レクリエーション活動拠点の確保等地域の活性化に資するための港湾整備が要請されている。

これらの背景をふまえ本港港湾計画の基本方針は次のとおりである。

1. 南予地域を背後圏とする流通拠点として、外内貿易については坂下津地区、内貿については大浦地区等において物流機能を強化する。
2. 築地、新内港地区において港湾再開発を推進する。
3. 港湾における快適な環境の創造を図るため、築地、新内港地区及び大浦地区において緑地等を整備する。
4. 港湾と背後地の円滑な連絡を図ると共に、港湾内の円滑な交通を確保するため、臨港交通体系の充実を図る。
5. 大規模地震に対処するため、築地、新内港地区に耐震性の高い港湾施設を整備する。